

2023 年度「飲食店」の倒産動向調査

2023 年度の「飲食店」倒産、802件で過去最多

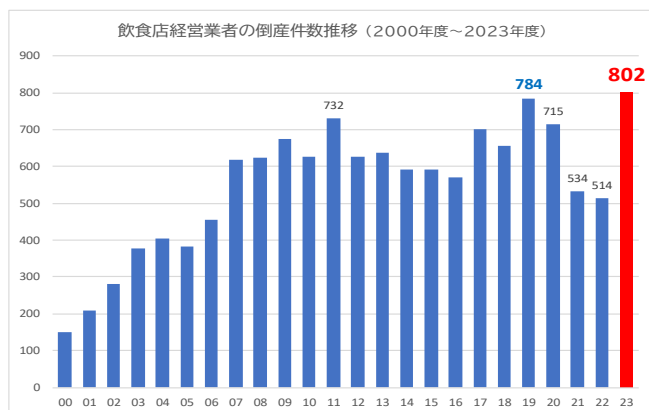
業態別では「居酒屋」「中華料理・ラーメン店」が過去最多に

各店舗に賑わい戻るも、食材高騰・人手不足・賃上げなどの課題噴出で収益確保が困難に

2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）の飲食店の倒産は、前年度比 56.0%増の 802 件となり、2019 年度（784 件）を上回って過去最多となった。

業態別（11 業態）にみると、最も多かったのは居酒屋を主体とする「酒場、ビヤホール」（207 件）で、ラーメン店などの「中華料理店、その他の東洋料理店」（130 件）、「西洋料理店」（90 件）、「バー、キャバレー、ナイトクラブ」（72 件）が続いた。深夜時間帯での営業店舗が多い「酒場、ビヤホール」と「バー、キャバレー、ナイトクラブ」を合わせると 279 件となり、飲食店全体の 34.8%を占めた。「酒場、ビヤホール」と「中華料理店、その他の東洋料理店」の件数が過去最多となって全体を押し上げたほか、コロナが発生した 2020 年度以降の 4 年間では 11 業態中 7 業態で最多となった。都道府県別でみると、東京（129 件）、大阪（95 件）、兵庫（72 件）などで多く、上位 5 都府県で全体の 50.4%を占めた。

コロナ前の 2019 年度に 784 件にまで増えた飲食店の倒産は、コロナ禍でのゼロゼロ融資や休業・時短営業に伴う協力金などによって、2022 年度は 514 件にまで抑制された。一方、コロナが収束に向かい多くの飲食店が賑わうようになったものの、2022 年度以降の光熱費や各種食材の価格高騰、人手不足の深刻化、賃上げ対応など新たな経営課題が噴出し、採算が確保できずに事業継続を断念する事業者が急増している。



業 態	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
酒場、ビヤホール	183	165	152	207
中華料理店、その他の東洋料理店	99	76	69	130
西洋料理店	92	64	55	90
バー、キャバレー、ナイトクラブ	61	37	32	72
日本料理店	67	49	45	70
喫茶店	58	43	42	68
その他の一般飲食店	47	33	38	61
一般食堂	55	34	42	53
すし店	30	18	18	25
そば・うどん店	12	9	9	22
料亭	11	6	12	4
合 計	715	534	514	802

株式会社 帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 阿部 成伸 03-5919-9341 (直通) shigenobu.abe@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。